

待兼山から羽ばたく。

社会の変化に伴い、法曹の活躍の場は、多種多様な領域へ広がりつつあります。

入学される皆さんが真の「Legal Professionals」に成長し、

本学のある待兼山から、広大な司法の世界へ羽ばたけるよう

私たちは一丸となって、全力でサポートします。



大阪大学法科大学院で学ぶ



高等司法研究科長
水谷 規男

法科大学院制度が始まって17年が経ちました。

大阪大学法科大学院からは、1000人を超える修了生が巣立ち、法曹として、あるいは公務員、企業人などとして、多様な分野で活躍しています。

大阪大学法科大学院では、入学者の多様性を確保する取組、学生一人ひとりの学びの質を向上させるための学習支援の取組(コンタクトチャートシステムなど)、さらには修了後の進路の多様化のための取組(キャリア支援科目の展開や自治体との連携、大学の教育・研究を支える新たな弁護士職の職域を開拓する「智適塾」プロジェクト)などの様々な取組を行うことによって、プロセスとしての学びの質を向上させる努力を重ねてきました。法学部以外の学部出身の人や社会人経験のある人に

開かれた法学未修者コースから、多くの司法試験合格者を出していることも大阪大学法科大学院の強みです。

さらに2020年度からは、法学部に法曹コースが設置され、学部との一貫した教育によって、法曹となるための時間の短縮が図られます。今秋には、法曹コースを3年次で修了する予定の法学部生が法科大学院を受験することになります。法学部で体系的かつ集中的に法律科目を学んできた法曹コース出身者と、多様なバックグラウンドを持つ未修者とは、法科大学院の2年次、3年次では一緒に学ぶのです。そのことによる相乗効果も期待しているところです。法学の知識を単に詰め込んだだけでは、良き法曹になることはできません。司法試験

に合格し、良き法曹となるためには、多面的なものの見方や社会的な常識を身につけることが、そして何よりも同じ志を持つ仲間と切磋琢磨し合うことが大切です。法科大学院の強みは、大学と一緒に学んだ仲間が修了後も仲間として、刺激し合っていくことができることにあります。

大阪大学法科大学院のある豊中キャンパスは、千里丘陵の西端、待兼山にあります。法科大学院生の自習室のある豊中総合学館の上層階からは、南に向かって大阪平野が一望できます。この恵まれた環境の中で志を同じくする仲間とともに学び、これからの社会を支えていく人になる。そんな皆さんの夢を叶える場が大阪大学法科大学院です。

教育理念を支える4つの柱

